

平成27年度 教員免許状更新講習「学校教育と体験活動A」

1 趣旨

社会の発展とともに子どもを取り巻く環境は大きく変化した。特に、自然体験活動の経験が減少し、自然や人との関わりから得られる知恵や知識、能力が身に付かず、「社会性」や「生きる力」が十分に育っていない子どもが多くなっている。

そこで、本講習では学校教育における体験活動の意義を再認識するとともに理解を深め、実際の教育現場での活用の仕方について考える。そのために、大学教員や自然の家職員の講義に加え、自然の家で実施している「自然体験活動プログラム」を実際に体験することによって、体験活動についての基本的な考え方や指導技術等を身に付ける。

2 主催

国立大学法人 宮城教育大学

3 共催

独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立花山青少年自然の家

4 期日

平成27年8月11日（火） [日帰り]

5 場所

国立花山青少年自然の家

6 参加対象と人数

免許状更新対象者（幼稚園，小学校，中学校，高等学校教諭） 28名

7 参加状況

	宮城県		福島県		計	
	男	女	男	女	男	女
受講者	16	11	1	0	17	11
計	27		1		28	

8 日程

時刻	プログラム	内容等	場所
8:30	受付開始		玄関ロビー
9:00	【開講式】	インフォメーション	大研修室
9:10		諸連絡（事務局）	
9:10	【講義1】 「学校教育と自然活動」	講師 宮城教育大学 教授 本関 愛実	大研修室
10:10	【実習1】 「アイスブレイキングの手法」	講師 国立花山青少年自然の家 企画指導専門職 村上 卓	
11:10	【講義2】 「体験学習法の理解」	講師 国立花山青少年自然の家 主任企画指導専門職 狩野 浩二	大研修室
12:00			

12:40	【実習 2, 3】 「火起こし体験」 「焼板作り」	講師 国立花山青少年自然の家 企画指導専門職 村上 卓	工作館
14:10	【実習 4】 「スコアオリエンテーリング 体験」	講師 国立花山青少年自然の家 主任企画指導専門職 狩野 浩二	屋外
15:40			
16:00	【実習 5】 「ふりかえり」 (評価と反省)	講師 国立花山青少年自然の家 企画指導専門職 村上 卓	大研修室
16:20			
16:30	【試験】 「筆記試験」	担当 国立花山青少年自然の家 主任企画指導専門職 狩野 浩二	大研修室
17:10			
17:10	【評価】 「アンケート記入」	担当 国立花山青少年自然の家 主任企画指導専門職 狩野 浩二	大研修室
17:15			
17:15	【閉講式】	インフォメーション 諸連絡 (事務局)	大研修室
17:20			

9 実施状況

(1) 宮城教育大学との連携・協力



宮城教育大学 本図愛実教授による講義
【講義 1】「学校教育と体験活動」

宮城教育大学との連携事業であり、平成 22 年度より実施して、今回で 11 回目を迎える。

6 時間の講習に 28 名の免許更新対象者が受講した。講習時間は 6 時間である。宮城教育大学と国立花山青少年自然の家それぞれの特徴や教育資源を生かし、互いに連携・協力し合いながら講習を実施している。主に知識・理解に関する部分は大学が担当しており、今回は、本図愛実教授による「学校教育と体験活動」と題する講義において体験活動の意義や効果についての理解を深めた。

(2) 自然の家の特色を生かした体験活動の実施

自然の家職員による講義や実習では、本図教授の講義をふまえながら、実際に自然の家で行われている自然体験活動プログラムの事例をとおして体験学習に対する理解や実践を深めた。

最初に、人間関係づくりの手法として「アイスブレイキング」を実習した。初めて出会った受講者同士がこの実習を通じて心をほぐし合い、グループとしての顔合わせと研修の目的の共有化を図ることができた。受講者からは活発な質問や意見が出され、今後の学校生活等におけるグループづくりに生かしていきたいという声も多かった。

次に、自然の家で実施している自然体験活動プログラムの目的や方法、具体的な実践に関する講義を行った。その後、実際に「火起こし」「焼板作り」を体験した。雷雨のため「スコアオリエンテーリング」の代わりに、館内で行う「ここどこオリエンテーリング」を体験した。理論と実習を組み合わせながら、受講者自身が児童・生徒の立場になって体験活動の教育的効果と有効性を実感することができたと考える。



【実習1】「アイスブレイキングの手法」
村上卓企画指導専門職による実習



【講義2】「体験学習法の理解」
狩野浩二主任企画指導専門職による講義



【実習2】「火起こし体験」



【実習3】「焼き板作り」



【実習4】「こころこころオリエンテーリング」



【実習5】「ふりかえり」
(評価と反省)

10 成果と課題

(1) 成果

- ・大学と自然の家が連携協力することにより、実践を通しながら講義内容の深化が図れるため受講者の評価も高かった。
- ・グループでの体験活動を通して、受講者相互による「意見交換」や「教え合う場面」が見られると共に、教育現場での実践に役立てようとする意欲を感じることもできた。

(2) 課題

- ・大学の教授による講義と自然の家で行う実習について整合性がとれるように大学との情報共有をしっかりと行っていきたい。また、受講者への情報提供を正確に発信するためにも大学との連携を密にしていく必要があると考える。